

観光振興政策で差別化を図ってきたか 歴史・経験の全体で差別化と捉えた



野田 忠 幸
(21世紀の会)



議員 観光振興において、近代製鉄発祥の地釜石が有する唯一無二の「鉄の歴史」にフォーカスした差別化が必要ではないのか。

産業振興部長 鉄を中心とした産業・文化、東日本大震災からの復興等を経験した釜石全体をもって差別化と考えてきた。近代製鉄発祥の地としての歴史・文化は釜石の貴重な資源であり、一度訪れてみたい土地となるようその情報発信に重点的に取り組みたい。

議員 プレミアム付き商品券は年金受給者が購入し難い期日に販売することが続いているがどうしてか。

産業振興部長 本事業は国の交付金と市の一般財源を充てるのでその予算化のタイミング等を総合的に判断し、地域経済の活性化及び市民生活への支援という事

業効果の早期実現を図るための販売日設定だった。第8弾の追加販売は年金受給者等の生活実態を考慮し8月21日を予定している。

議員 空き家を除去後5年間は固定資産税をそれまでと同程度になるよう減免するとなつたが、適用を受けるに当たり注意点は。

総務企画部長 事前相談を要件とする。減免措置の対象要件を事前確認し、事後の不利益や手続きの遅延を防止するため、また、除去後では現地の状況確認が困難となる場合があるためだ。事前確認には一定の期間を要するので余裕をもって相談してほしい。



第8弾かまいしエール券

目指すまちづくりは 訪れる人にも住む人にも選ばれるまち



佐藤 憲 弘
(民政クラブ)



議員 市長は観光政策を人口減少対策の中でどのように位置づけ、どのようなまちづくりを目指す考えか。

市長 住む人と訪れる人をつなぐ重要な役割を担うものと位置づけ、交流人口の拡大から関係人口の創出、さらには定住へとつながる好循環を生み出すことで、「訪れる人にも、住む人にも選ばれるまち釜石」の実現に向け、取り組む。

議員 関係人口を創出する際の課題は。

総務企画部長 当市を訪れた方が一度の観光で終わらず、再訪・リピーター化、さらには継続的な関わりを持つ「関係人口」。この局面での課題は、再訪したくなる、あるいは継続的に関わりたくなるような魅力的なプログラムや地域住民との交流の場を提供できてい

るかという点。「来てもらう」施策、体験プログラムやワーケーションなどのコンテンツを強化、移住検討者に、暮らしと魅力を体験していただく、暮らしお試し移住パックを提供している。

議員 公共工事の予算は税金。競争性の確保も重要だがそれ以上に公共事業による資金が地域内で循環し、雇用や技術の維持につながることも重要だ。当局は公共調達を地域経済政策の一つとして捉え、市内事業者への優先発注を今後も維持・強化していく考えか。

財政課長 市内事業者の発注については、優先制度を引き続き進める。



御箱崎の千畳敷